

力強く生きてきた女性たちにスポット

和歌山市男女共生出前講座

和歌山市男女共生出前講座を2月23日、鳴神児童館でひらかれ、55人が参加した。

以前、和歌山人権研究所で和歌山の部落史を編纂していた矢野治世美さんが講師。8月の高野山夏期講座で江戸時代の高野山と被差別



写真を見ながら説明する矢野・熊本学園大学助教教授

別民の講演をきっかけに、今回は男女共生というテーマに沿って「歴史から考える人権」男女共生の視点から「『女人禁制』から考えよう!」という内容での講演であった。



矢野治世美・助教教授

入りや行事への参加を拒否・排除する慣行・風習で、伝統文化という名のもと敷かれていた。高野山は1872年(明治5年)まで女人禁制とされ、結果石や立札がおかれ、女性が参詣することができなかった。女性は女人道を通じて女人堂に宿泊をして外から拝観していた。そのようななか、庶民の参詣が盛んになり、大きな法要があったときに女人結界を超えたことが古文書に明記されている。女人禁制が解除されたのは、1871年(72年)明治4(5年)にひらかれた京都博覧会を契機に、外国人観光客の来訪が大きな理由と明治政府が言い渡した。最後に、女人禁制は伝統や慣習であるといわれる

火曜日は、えがおランチ

地域サロンだんらん

毎週火曜日、ふれあいサロン「だんらん」でランチを提供するNPO法人ヒューマンライツ湯浅のメンバーにお話をうかがった。

◆えがおランチ

毎週火曜日
11:30～売り切れ次第終了
(月1回、社協と連携して家族会も開催!)
65歳以上、ポイント制!



えがおランチでほっこり

が、時代によって変化し、あやふやなものである。排除や差別をとまなわれない伝統のあり方を対話によって考えていくことが大切で、あらゆる差別を解決するために必要なことであると語った。

あった。

就労支援については、地域に根ざした雇用創出の場をつくることも重要である。湯浅町では、NPO法人による「えがお」昼食サービス事業が展開され、多く

をなくす条例」が本年3月に制定されている。県連として、県当局と数度にわたって和歌山県条例のあり方について検討してきた。和歌山県では2002年に「和歌山県人権尊重の社

主張 第64回県連大会の成功を期に各支部で部落解放運動を前進させよう!!

のスタッフが地位に根ざした福祉活動を展開している。

また、若年層では和歌山県内に限定し、雇用を創出していくとくみも紹介されていた。条例化のとりくみでは、「湯浅町部落差別

会づくり条例」が制定され、それをうけて9市町で条例が制定されている。しかし、どの条例も旧法の期限後に制定された条例であり、「推進法」が制定されたのをう

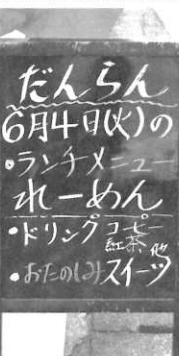
「湯浅町条例」は部落差別

の規制を含めた画期的な条例であり、可能な限りこの条例に近づけていく必要がある。各支部・各市町村で条例化闘争を展開していくことが確認された。

「推進法」が制定されて2年半が経過した。この間、「推進法」制定の意義を学習し、県民に訴えてきた。

しかしながら、県内では悪質な差別事件が多発している。インターネット上に氾濫している差別情報、差別問合せ事件、そして結婚差別事件などがそうである。県内の条例化闘争を構築し、差別の実態を明らかにし、さらなる人権の法制度を確立していこう。

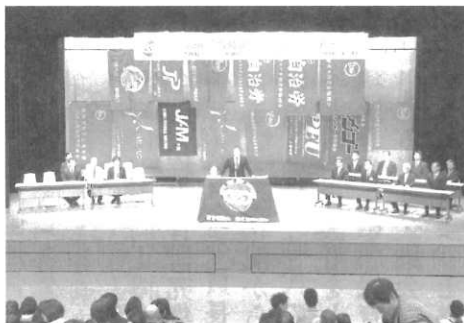
昨年5月からはじまったランチには、50人前後の利用者がふれあいサロン「だんらん」に集まる。柔らかな調理されたランチは、しつかり味付けがされ、ご飯がすすむ。デザートも手作りマドレーヌやプリンなども準備され、カフェさながら。また、配膳や調理をされるボランティアの方々



「だんらん」が提供する。地元企業と連携し、地産の新鮮な魚料理やお寿司などもあり、夕食の一

紀北メーデー

第90回連合紀北地方メーデーは、ホール田園でひらかれ、紀北ブロックから飯田敬文・県連執行副委員長をはじめ、紀北ブロック各支部から参加した。



連合和歌山紀北地方メーデーの様子

はじめに、主催者を代表して連合和歌山紀北地域協議会の松尾知也・実行委員長が「紀北地域協議会として組織拡大政策制度要求をはじめ、あらゆる分野での平和を守る!笑顔あふれる未来をつくろう!すべての仲間の連帯で!」が確認された。また、メーデー宣言(案)を西本征格・メーデー副実行委員長(築野食品工業労働組合)から提案された。最後に、竹中文規・メーデー実行委員長代行(兼職那賀支部)から閉会宣言され、第90回連合紀北地方メーデーが閉会された。

文化の窓

「忘れてなんかない!」

—ディスレクシア—

読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち。

著者:品川裕香、岩崎書店

ISBN:978-4-265-80126-8 発行日:2003年11月14日

「忘れてはいけない」という「規範」にはめてしまう社会が、ディスレクシアや障がいをもつ子どもたちを苦しめていることに、学校現場や大人たちは気づくべきだ。居場所を奪われ、尊厳を傷つけられた子どもたちの生きづらさが記された一冊。



◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073-473-2301

品にも好評だ。メニューも同じものにならないよう工夫され、第1火曜日はお酢を使った料理、第2火曜日はカレー、第3火曜日は白のおか

ず、第4火曜日は井や炊き込みご飯など、バラエティー豊かだ。利用者をみわたせば、知った方々も。火曜日には、えがおランチをぜひ!